

検査値の読み方

分類	検査項目	基準値	検査値の意味
身体測定	血圧測定	最高血圧90～139mmHg 最低血圧60～89mmHg	高血圧は動脈硬化をはじめ、さまざまな病変を起こします。
	BMI	18.5～24.9kg/m ²	肥満の判定はBMI：(body mass index) = 体重(kg)/身長(m) の2乗をもとに次のように判定します。 25.0～29.9肥満(1度) 30.0～34.9肥満(2度) 35.0～39.9肥満(3度)
	腹囲	男85cm未満 女90cm未満	
血液一般	白血球数(WBC)	3500～9900/ μ l	主に感染症や血液疾患の有無を調べます。健康でも基準値からはずることがあるのでこのようなときは医師に相談してください。
	赤血球数(RBC)	男395～540万/ μ l 女353～484万/ μ l	赤血球数が減ると酸素の運搬能力が低下し、貧血がおこります。
	ヘモグロビン(Hb)	男12.7～16.4g/dl 女11.0～14.8g/dl	赤血球中に存在する赤い色素で貧血が強いと低値になり、めまいや頭痛の原因となります。
	ヘマトクリット(Ht)	男37.8～48.2% 女31.4～43.1%	全血のうちの赤血球の割合を示し、貧血の程度を調べます。
	血小板数	12～40万/ μ l	血液凝固に重要な働きをする血液成分で、血液疾患や慢性肝疾患などで減少します。
	血液像		血液成分の異常を調べ、血液疾患や感染症などの疾患の有無を調べます。
呼	肺機能(1秒率)	70～100%	主に慢性気管支炎、気管支喘息、慢性肺気腫などの慢性肺疾患の診断に用いられます。
炎症反応	血沈	60分値 男10mm> 女15mm> 120分値 男30mm> 女45mm>	赤血球沈降速度で、種々の感染症や炎症性疾患で亢進(高値)となります。また、強い貧血や妊娠などでも亢進します。
	CRP	0.25mg/dl>	急性の炎症や組織の損傷、膠原病などで増加します。
	ASO	250IU/ml>	溶連菌感染症の診断や既往の有無を調べるのに用いられます。
	RF	20IU/ml以下	特異性はありませんが、慢性関節リウマチ(RA)に高頻度に見出される抗体です。
脂質・代謝	総コレステロール	130～220mg/dl	動脈硬化や心臓病などの診断や予防のための指標として用いられます。
	中性脂肪(TG)	50～149mg/dl	動脈硬化の危険因子の1つで、肥満、糖尿病、脂肪肝、内分泌疾患、特殊な高脂血症などで高値となります。
	HDL-C	男40～70mg/dl 女50～80mg/dl	善玉コレステロールといわれているもので、低値の場合は動脈硬化を促進するといわれ、注意が必要です。
	LDL-C	140mg/dl未満	悪玉コレステロールといわれているもので、高値の場合は動脈硬化を促進するといわれ、注意が必要です。閉経後、悪玉コレステロールが高くなることがあります女性ホルモンの影響です。
	尿酸	男3.6～7.0mg/dl 女2.4～7.0mg/dl	痛風の原因となる物質で、高蛋白、高カロリーの食事、アルコールの過飲なども、尿酸値の増加に大きく影響します。
	空腹時血糖	70～110mg/dl	糖尿病の診断に用います。検査時点での状態を示しており、食事や飲物により変動します。
	HbA1c (NGSP値)	4.6～6.2%	ヘモグロビンとブトウ糖が結合したもので、過去2～3ヶ月の血糖値の状態を反映するので、糖尿病の程度や治療効果の判定に用います。

分類	検査項目	基準値	検査値の意味
腎機能	BUN (尿素窒素)	8.0-23.0mg/dl	BUN、CREともに腎臓の排泄機能（腎機能）が正常かどうかをみるために用いられます。
	CRE (クレアチニン)	男0.65-1.09mg/dl 女0.46-0.82mg/dl	
	尿蛋白	(-)	尿中のタンパクで腎炎やネフローゼ症候群でたくさんです。
肝・胆道・膵	尿潜血	(-)	尿中の赤血球を試験紙でみた反応で、尿路感染、腎・尿路結石、腫瘍などの時に多くみられます。
	TTT	4>U	
	ZTT	4-12U	血清膠質反応とよばれ、慢性肝疾患、膠原病、慢性炎症などで高値を示します。
	GOT (AST)	5-40 IU/I	
	GPT (ALT)	3-35 IU/I	肝臓の細胞が壊れると血液中に出てくる酵素で、急性肝炎や慢性肝障害で肝細胞障害の強いときに高値を示します。GOT (AST) は心疾患、筋疾患でも上昇します。
	γ-GTP	56 IU/I 未満	慢性肝障害、胆道疾患、アルコールや薬物による肝障害、脂肪肝などで高値を示します。
	LDH	124-222U/I	肝疾患、心臓疾患、血液疾患で高値となる酵素です。
	総ビリルビン (T・Bil)	0.2-1.2mg/dl	肝胆道疾患で黄疸の見られるとき、高値となります。また溶血でも高値となり、体質的にも高い人がいます。
	ALP	IFCC 38-113 IU/I JSCC 104-338 IU/I	肝胆道疾患や骨疾患で高値を示します。
	CHE	185-431 IU/I	肝疾患、血液疾患、消耗性疾患などで低値を示し、ネフローゼ、脂肪肝などで高値となります。
消化管検査他	CPK	35-200 IU/I	骨格筋や心筋に多く含まれ、筋炎、心筋梗塞などで、高値となります。また、激しい運動後も高値を示すことがあります
	TP アルブミン (ALB)	6.5-8.2g/dl 3.7-5.5g/dl	栄養状態を反映する指標ですが、肝機能や腎機能の障害で、代謝異常があると変動します。
	CEA	5.0ng/ml >	消化器系腫瘍、肺腫瘍、慢性肝疾患などで高値になりますが、年齢や喫煙でも上昇することがあります。
	CA19-9	37U/ml >	肝・胆道・膵の腫瘍や炎症性疾患などで上昇します。
	エラスターーゼ I	40-260ng/dl	膵酵素の1つで、膵炎や膵腫瘍で高値を示し、アミラーゼよりも病態を鋭敏に反映するといわれます。
	アミラーゼ (AMY)	37-125 IU/l	膵臓などの損傷で高値を示します。
	尿中カロビリノーゲン	0.1-1.0 EU/dl	肝疾患や溶血性貧血などで高値を示します。